

ふりがな 氏名	おおた みさこ 大田美佐子				
就こうと する職名	教授	所属	人間発達環境学研究科 人間発達専攻表現系 教育研究分野	専任・兼任 の別	専任
略 歴					
学 歴	年月	事 項			
	1987年3月	私立雙葉学園高等学校卒業			
	1987年4月	東京芸術大学音楽学部楽理科入学			
	1992年3月	東京芸術大学音楽学部楽理科卒業(学士(音楽学))			
	1993年4月	学習院大学大学院人文科学研究科博士課程前期課程ドイツ文学専攻入学			
	1995年10月	ウィーン大学音楽研究所留学(オーストリア政府給費留学生)(~1997.7)			
	1997年3月	学習院大学大学院人文科学研究科博士課程前期課程ドイツ文学専攻修了			
	1997年10月	ウィーン大学大学院人文科学科博士課程入学			
2001年3月	ウィーン大学大学院人文科学科博士課程修了				
職 歴	年月	事 項			
	2001年4月	明治学院大学文学部非常勤講師(~2002.3)			
	2002年4月	神戸商科大学商経学部非常勤講師(~2003.3)			
	2001年4月	京都市立芸術大学音楽学部非常勤講師(~2005.3)			
	2003年4月	神戸大学発達科学部助教授(~2007.3)			
	2003年10月	神戸大学大学院総合人間科学研究科 担当(~2014.3)			
	2007年4月	神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授(~現在)			
	2007年4月	神戸大学発達科学部准教授 併任(~現在)			
	2013年8月	ハーバード大学音楽学部客員研究員(~2014.1)			
	2015年12月	東京芸術大学音楽学部非常勤講師(集中講義:音楽学特講)			
	2017年4月	愛知県立芸術大学音楽学部非常勤講師(集中講義:芸術と諸科学)(~現在)			
	2019年4月	岡山大学教育学部非常勤講師(集中講義:西洋音楽史)(~現在)			
	2021年4月	早稲田大学総合研究機構オペラ/音楽劇研究所 招聘研究員(~現在)			
	2021年4月	AA研(東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所)共同研究員(~現在)			
2021年4月	国際日本文化研究センター共同研究員(「日本型教育の文明史的位相」) (~現在)				
学位	年月	事 項			
	1997年3月	修士(ドイツ文学)(学習院大学)			
	2001年3月	博士(音楽学)(ウィーン大学)			

著書及び学術論文等目録

【研究活動】

I. 著書

<単著>

1. クルト・ヴァイルの世界 – 実験的オペラからミュージカルへ 岩波書店 2022.3
全 494 頁

<分担執筆>

1. Gedenkschrift für Walter Pass Verlag Dr. Hans Schneider 2002.2
(Hrg. von Martin Czernin) pp. 627-660
Kurt Weill und Wien-eine andere Perspektive seiner Opernreform
2. Musik in Theorie, Geschichte und Ästhetik, Band III Verlag Dr. Hans Schneider 2003.2
(Hrg. von Prof. Walter Pass u. Monika Fink) pp. 75-97
Musik und Politik, Manipulation und Mißbrauch der Musik der Strauß-Familie in der NS-Zeit -anhand des Marsches <Marsch des einigen Deutschlands> (Op.227) von Johann Strauß Vater
3. キーワード 人間と発達 [増補改訂版] 大学教育出版 2007.10
神戸大学発達科学部 編集委員会編 pp. 196-197, pp. 200-201
「美-社会における芸術の機能と創造の美学:
「実用音楽」と聴衆」「批評-芸術と社会の狭間で」
4. ブレヒト 詩とソング 花伝社 2008.7
(市川明編) pp. 135-156
「ブレヒトと日本の作曲家たち- 林光と萩京子の
ブレヒト・ソング」
5. ブレヒト 音楽と舞台 花伝社 2009.6
(市川明編纂) pp. 46-68
「音楽のモダニズムとその展開 - 日本の作曲家たちによる
開かれたブレヒトの音楽劇」
6. Sounding Together - Collaborative Perspectives on University of Michigan Press 2021.8
U.S. Music in the 21st Century pp. 51-81
(edit. by Charles Hiroshi Garrett and Carol J. Oja)
“US Concert Music and Cultural Reorientation during the
Occupation of Japan” (Misako Ohta, Carol J. Oja)

II. 学術論文

<学位論文>

- Kurt Weills Musiktheater in den Dreissiger Jahren des ウィーン大学 2001.1
zwanzigsten Jahrhunderts - Zwischen Kunstanspruch und 博士学位論文
öffentlicher Wirksamkeit 全 210 頁

<査読付き論文>

1. Marian Anderson's 1953 Concert Tour of Japan: A Transnational History (Katie Callam, Makiko Kimoto, Misako Ohta, Carol J. Oja) American Music, 37 (3), 2019.11 pp. 266-329
2. 日本の《三文オペラ》試論 (1) —黎明期における三文熱をめぐって— (大田美佐子, 肥山紗智子) 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要 第14巻1号 pp. 37-53

<依頼論文>

1. 多様性の中のヴァイラー—デッサウ第2回クルト・ヴァイル・フェスティヴァルから (ドイツの光と影—ナチスの時代から今日への照射<特集>) 音楽芸術 (音楽之友社) 52(5) 1994.5 pp. 39-45
2. ヴァイル受容への問いかけ—デッサウ第3回クルト・ヴァイル・フェストから 音楽芸術 (音楽之友社) 53(6) 1995.6 pp. 78-81
3. ヴァイルとヒンデミット 聴衆に見た夢—《リンドバークの飛行》をめぐって (ヒンデミット特集) ベルク年報 (日本アルバン・ベルク協会) 7 pp. 42-53
4. ユダヤ系としてのアイデンティティと指揮活動—マーラー演奏を中心に— 音楽現代 28(7) 1997.7 pp. 73-75
5. ヴァイルから見たブレヒト生誕100年—デッサウ第6回 ヴァイル・フェストから 音楽芸術 (音楽之友社) 56(6) 1998.6 pp. 84-87
6. ブレヒトとヴァイルのプリズム ヴァイル研究とブレヒト (特集 ブレヒト/ヴァイル—現代社会を照射する) 音楽芸術 (音楽之友社) 56(10) 1998.10 pp. 27-34
7. ザルツブルク音楽祭のドラマトウルギー—「カーチャ・カバノヴァ」と「マハゴニー市の興亡」 音楽現代 28(10) 1998.10 pp. 148-149
8. シェーンベルク故郷に帰る ベルク年報 (日本アルバン・ベルク協会) 8 pp. 103-107
9. アメリカで見た景色—クルト・ヴァイルの社会派音楽劇の軌跡 文学 (岩波書店) 15 (2) 2014.3 pp. 84-98

<査読なし論文>

1. Kurt Weill und Gustav Mahler - Der Komponist Weill als Nachfolger Mahlers Ohta Misako 学習院大学ドイツ文学会研究論集 2 (2) 1998.3 pp. 39-58
2. 音楽と政治 ナチス政権下のヨハン・シュトラウス受容—ヨハン・シュトラウスのドイツ国家のマーチに関して— 学習院大学ドイツ文学会研究論集 4 2000.3 pp. 1-24

- | | | |
|---|---|---------|
| 3. クルト・ヴァイルとウィーン—オペラ改革研究への新視角— | 京都市立芸術大学音楽学部・
大学院研究紀要ハルモニア
第33号 pp. 15-27 | 2003.3 |
| 4. Modernismus in der Musik und seine Entfaltung –
Brecht'sches Musiktheater von japanischen Komponisten | Studienreihe der Japanischen
Gesellschaft für Germanistik 057
pp. 68-78 | 2008.10 |
| 5. ヴァイマル期の「音楽教育劇」
—学校オペラ《Jasager》成立をめぐる— | 神戸大学大学院人間発達
環境学研究科研究紀要 特別号
pp. 89-95 | 2016.6 |

III. 学会などでの口頭発表

<学会発表>

[国際学会]

- | | | |
|--|--|---------|
| 1. Musik und Politik Manipulation und Mißbrauch der
Musik der Strauß-Familie in der NS-Zeit -anhand des
Marsches <Marsch des einigen Deutschlands> (Op.227)
von Johann Strauß Vater | 国際ヨハンシュトラウス学会 | 1999.6 |
| 2. ヴァイルとシェーンベルクの接点 | 国際シンポジウム
「シェーンベルクと<様々な伝
統>」 | 2001.7 |
| 3. 芸術の要請と社会的効果 1930年代へと向かう
クルト・ヴァイルの音楽劇 | 日本音楽学会 50周年記念国際
大会 | 2002.11 |
| 4. Die Dreigroschenoper (The Threepenny Opera)
as a device of cultural memory in Japan: the case of
“Takarazuka Revue Version” | International Musicological
Society, 20th Quinquennial
Congress in Tokyo | 2017.3 |
| 5. 日本の文化的記憶装置としての三文オペラー
新劇から宝塚版に至るまで | 北京大学・復旦大学・神戸大
学三校人文学シンポジウム | 2018.11 |
| 6. Marian Anderson's 1953 Tour of Japan – Post Occupation
Racial Encounter through Performance | Society for American Music 45 th
Annual Conference in New
Orleans | 2019.3 |
| 7. Several thoughts about transnational approach in historical
music research | Workshop: At the Borders of Art
and Power: Western Classical
Music in the Global Marketplace | 2020.2 |
| 8. Threepenny Fever in its early days | IMS Global Study Group | 2022.8 |

[国内学会]

- | | | |
|---|--------------|---------|
| 1. 音楽と政治—ナチス時代におけるヨハン・シュトラ
ウス受容—ヨハン・シュトラウス(父)の《ドイツ統
一のマーチ》Op.227に関連して | 日本音楽学会関西支部例会 | 2002.1 |
| 2. クルト・ヴァイルとウィーン 戦略的音楽劇制作
に関連して | オーストリア文学会例会 | 2002.9 |
| 3. ウィーン音楽史の諸相 | ハプスブルク研究会 | 2002.12 |

4. ヴァイル作品における声の力とその歴史的 位置付け	阪神ドイツ文学会	2004.7
5. ブレヒトと日本の作曲家たち －林光と萩京子のブレヒト・ソング－	阪神ドイツ文学会	2006.12
6. Modernismus in der Musik und seine Entfaltung －Brecht'sches Musiktheater von japanischen Komponisten－	日本独文学会秋季研究発表会	2007.10
7. 大戦間期におけるワーグナー受容の一側面 －ウィーン音楽界と音楽雑誌アンブルッフを 手がかりに	日本ワーグナー協会 関西支部例会	2011.9
8. クルト・ヴァイル作品に映し出された 1940 年代 のアメリカ《三文オペラ》の沈黙と民謡の力	日本音楽学会 第 65 回全国大会	2014.1
9. 作曲家作品研究からの展開－対話的音楽文化史 の可能性について －シュトラウス、フォースター、ヴァイル	立命館大学大学院 先端総合学術研究科 シンポジウム「コトとして の音楽を考える」	2017.2
10. ヴァイルの音楽劇改革におけるオペレッタ	日本演劇学会西洋比較演劇研 究会シンポジウム「1920 年代 －30 年代のオペレッタとその 周辺」	2018.10
11. オペラとミュージカルの美学 －その連続と分断 ヴァイル研究の視覚から	早稲田大学総合研究機構 オペラ / 音楽劇研究所 第 200 回オペラ研究会	2022.2
12. Covid-19 ショックとその歴史的視座 －劇場での舞台公演に関連して	東京外国語大学アジアアフリ カ言語文化研究所「新型コロ ナ感染拡大下における芸能に 関する学際的研究」2022 年度 第 2 回研究会(通算第 5 回)	2022.7
13. 「クルト・ヴァイルの世界」を捉え直す (ラウンドテーブル「大戦期欧米の音楽へのまなざし: 文化・社会史としての音楽研究の可能性」 田崎直美, 渡辺裕, 椎名亮輔)	日本音楽学会 第 55 回 (通算 406 回) 西日本支部研究 例会, 京都女子大学 (ラウンド テーブル)	2022.12
14. 吉原真里著 『親愛なるレニー－レナード・ バーンスタインと戦後日本の物語』を通じて 考える「越境・対話的文化史の可能性」 (『親愛なるレニー－レナード・バーンスタインと 戦後日本の物語』刊行記念「音楽がつむぐ歴史の可能性」)	同志社大学フェミニスト・ジ ェンダー・セクシュアリティ 研究センター (F.G.S.S.) 公開セミナー	2023.1

IV. その他

<翻訳>

1. ドイツの良心を文化と政治の面で敏感に反映するクル ト・ヴァイル (G. ワグナー著, 岩淵達治訳, 太田美佐子訳)	音楽芸術 (音楽之友社) 54(10) pp. 92-99	1996.10
---	----------------------------------	---------

- | | | |
|---|---|--------|
| 2. シェーンベルク：美学と倫理
(マッシモ・カッチアーリ著) | 『シェーンベルク没後 50 年
展』カタログ(明治学院大学) | 2001.6 |
| 3. モーツァルトに学ぶアーノルド・シェーンベルク
(マティアス・シュミット著) | 『言語文化』第 19 号
明治学院大学言語文化研究所
pp. 154-160 | 2002.7 |
| 4. ウィーンっ子によるウィーン音楽案内
(フランツ・エンドラー著) | 音楽之友社 全 241 頁 | 2003.1 |
| 5. メッツラー音楽大事典 DVD-ROM 版
(監修：長木誠司, 大角欣矢, 野本 由紀夫, 監閲：飯森豊水,
太田美佐子, 大宅緒, 尾山真弓, 木村佐千子, 倉橋玲子, 佐藤望,
柴辻純子, 清水穰, 関根裕子, 鳴海史生, 平塚知子, 広瀬大介,
藤村晶子, 藤原一弘, 星野宏美, 松田聡, 安原雅之, 山本まり子,
米田かおり) | 教育芸術社 | 2006.4 |
| 6. ソノ・オーサト：第二次世界大戦下のポリティクス、
バレエ、ブロードウェイ
(C. J. オジャ著, 太田美佐子 解説・訳, 木本麻希子訳) | 神戸大学大学院人間発達
環境学研究科研究紀要
第 11 巻 第 1 号 pp. 137-145 | 2017.9 |

<事典>

- | | | |
|---|----------------------------------|---------|
| 1. 事典 世界音楽の本
(徳丸吉彦, 高橋悠治, 北中正和, 渡辺裕 他著・編集)
「亡命者たちのブロードウェイとハリウッド」
「ヴァイマル時代のキャバレー文化」 | 岩波書店
pp. 267-270, pp. 285-289 | 2007.12 |
| 2. ハプスブルク事典
(川成洋, 菊池良生, 佐竹謙一 編集)
「ビーダーマイアー」
「ヨハン・シュトラウス」 | 丸善出版
pp. 490-493, pp. 508-509 | 2023.2 |

<報告>

- | | | |
|--|---|---------|
| 1. 《マハゴニー市の興亡》シンポジウム・レポート
(特集 プレヒト/ヴァイラー—現代社会を照射する) | 音楽芸術 (音楽之友社) 56 (10)
pp. 54-57 | 1998.10 |
| 2. インタビュー「ヨアヒム・ヘルツ (オペラ演出家)」 | 音楽の友 (音楽之友社) 57 (2)
pp. 108-109 | 1999.2 |
| 3. 海外情報 (オーストリア)
ウィーン 1999 年末のウィーンの催し物から | ExMusica 創刊号
pp. 272-273 | 2000.6 |
| 4. 海外情報 (ドイツ)
クルト・ヴァイル 2000 知られざる 30 年代 | ExMusica 第 2 号
pp. 194-195 | 2000.9 |
| 5. 海外情報 (オーストリア)
Neue Musik 100 年 20 世紀を振り返るウィーン音楽界 | ExMusica 第 3 号
pp. 189-191 | 2000.12 |
| 6. Schönberg -Ausstellung und Symposion in Japan
(10.-30.7) | Österreichische Musikzeitschrift
57 巻(1), p.38 | 2002.1 |
| 7. インゴルフ・ヴンダー・インタビュー
「生命の輪舞- ウィーン歴史の痕跡が残る都」 | ジュピター 第 135 号
pp. 4-5 | 2012.6 |
| 8. <座談会>関西地域のオペラ活動 | 日本オペラ年鑑 2014
学校法人東成学園
昭和音楽大学 オペラ研究所 | 2015.12 |

		pp. 42-53	
9. 関西地域のオペラ活動 2015	日本オペラ年鑑 2015 学校法人東成学園 昭和音楽大学 オペラ研究所		2016.12
	pp. 51-56		
10. キャロル・オジャ教授講演 「Marian Anderson and the Racial Desegregation of the American Concert Stage」のレポーターによる報告	日本音楽学会西日本支部通信 第12号(通巻112号) [電子 版], pp. 9-10		2017. 3
11. 関西地域のオペラ活動 2016	日本オペラ年鑑 2016 学校法人東成学園 昭和音楽大学 オペラ研究所		2017.12
	pp. 52-57		
12. 関西地域のオペラ活動 2017	日本オペラ年鑑 2017 学校法人東成学園 昭和音楽大学 オペラ研究所		2018.12
	pp. 52-58		
13. 関西地域のオペラ活動 2018	日本オペラ年鑑 2018 学校法人東成学園 昭和音楽大学 オペラ研究所		2019.12
	pp. 55-61		
14. 関西地域のオペラ活動 2019	日本オペラ年鑑 2019 学校法人東成学園 昭和音楽大学 オペラ研究所		2021.1
	pp. 59-66		
15. 関西地域のオペラ活動 2020	日本オペラ年鑑 2020 学校法人東成学園 昭和音楽大学 オペラ研究所		2022.1
	pp. 128-133		
16. 関西地域のオペラ活動 2021	日本オペラ年鑑 2021 学校法人東成学園 昭和音楽大学 オペラ研究所		2023.2
	pp. 107-113		

<公演プログラム解説>

1. 開かれたヴァイル・ワールドの窓 -ヨーロッパのヴァイル受容-	日生劇場開場 35 周年記念公演 「リンドバークの飛行/ 七つ の大罪」プログラム		1998.11
	pp. 44-47		
2. オペレッタ再考『メリー・ウィドー』の社会性と オペレッタ度	ウィーン国立歌劇場 日本公演プログラム,		2000.10
	pp. 62-63		

- | | | |
|--|--|---------|
| 3. ベートーヴェンのオペラ『フィデリオ』が今日に伝えるもの | バイエルン国立歌劇場
日本公演プログラム,
pp. 80-81 | 2001.10 |
| 4. 探求者ツェムリンスキーの《こびと》 | びわ湖ホールプログラム,
pp. 5-9 | 2007.11 |
| 5. 展開するワイル、深化する三文オペラ
ーワイルと《三文オペラ》 | びわ湖ホールプログラム,
解説, pp. 5-7 | 2012.10 |
| 6. ヴァイルと三文オペラ
ーその革新性、普遍性、攻撃性の魅力 | 新国立劇場プログラム,
pp. 30-31 | 2014.9 |
| 7. ブレヒトを想う | こんにやく座 白墨の輪
プログラム「オペラ小屋」
99号, pp. 10-11 | 2015.2 |
| 8. 曲目解説: クルト・ヴァイル交響曲第二番、
ベートーヴェンピアノ協奏曲第一番ほか | 大阪交響楽団 第252回定期
演奏会 プログラム, pp. 13-16 | 2021.10 |
| 9. 『クルト・ヴァイルの世界』ーこんにやく座の
オペラとの親和性をめぐって | こんにやく座 ルドルフと
イッパイアッテナ プログラム
「オペラ小屋」114号, pp. 20-21 | 2022.9 |

<書評>

- | | | |
|--|--------------------------------|---------|
| 1. 書評 宮本直美著『コンサートという文化装置ー交響
のヨーロッパ近代』 | メルキュール・デザール (9) | 2016.6 |
| 2. 書評 森佳子著『オペレッタの幕開けーオッフェン
バックと日本近代』 | メルキュール・デザール (19) | 2017.4 |
| 3. 書評 菅野恵理子著『MIT マサチューセッツ工科大学
音楽の授業』 | メルキュール・デザール (51) | 2020.10 |
| 4. 書評 森佳子, 奥香織, 新沼智之, 萩原健編, 大崎さやの,
村島彩加, 藤原麻優子, 小菅隼人, 森佳子, 中野正昭, 萩原健,
奥香織, 赤井朋子, 辻佐保子, 田中里奈著 『演劇と音楽』 | 音楽学
67巻1号
pp. 49-51, 全3頁 | 2021.10 |
| 5. 書評 井上さつき編著, 森本頼子, 七条めぐみ, 深堀彩香,
黄木千寿子, 山口真季子, 靱山陽子, 大西たまき著
『音楽と越境』 | メルキュール・デザール (90) | 2022.3 |

<評論>

- | | | |
|---|-------------------|---------|
| 1. 声のドラマ重視 際立った普遍性
トリエステオペラ「ルチア」公演 | 読売新聞 音楽の窓
大阪夕刊 | 2003.6 |
| 2. 作曲家の時代蘇らせ演奏に触れる好機
「ピアノはいつピアノになったか?」 | 読売新聞 音楽の窓
大阪夕刊 | 2003.10 |
| 3. メータと楽団の信頼 重厚・壮大な物語生む
イスラエル・フィル公演から | 読売新聞 音楽の窓
大阪夕刊 | 2003.12 |
| 4. オラトリオ鮮やか表出
大阪シンフォニカー響「エリヤ」 | 読売新聞 音楽の窓
大阪夕刊 | 2004.3 |

5. 独自の歌唱スタイル観客魅了 イアン・ボストリッジ 関西初公演	読売新聞 大阪夕刊	音楽の窓	2004.4
6. 次世代担うひとつの指標 ハイティンク指揮 ドレスデンシュターツカペレ	読売新聞 大阪夕刊	音楽の窓	2004.6
7. 期待の凱旋公演 証明した統率力 大植英次指揮 ハノーバー北ドイツ放送フィル	読売新聞 大阪夕刊	音楽の窓	2004.6
8. 要所で緊張高めた合唱 オペラ「十字軍のロンバルディア人」	読売新聞 大阪夕刊	音楽の窓	2004.11
9. 時代性見せた対照的アプローチ オペラ「ヴォツェック」社会との関わり	読売新聞 大阪夕刊	音楽の窓	2004.12
10. 緻密で豊かな響き バレンボイム指揮 ベルリン・シュターツカペレ 演奏会	読売新聞 大阪夕刊	音楽の窓	2005.3
11. Jasager 12-14 January 2007 Tokyo Chamber Opera, New National Theater	Kurt Weill Newsletter Spring 2007, 25 (1), p.15		2009.3
12. バーンスタイン 完成度高く 「キャンディード」	読売新聞 大阪夕刊	音楽の窓	2010.8
13. 良質なワーグナー「海外組」実現 オペラ「トリスタンとイゾルデ」びわ湖ホール	読売新聞 大阪夕刊	音楽の窓	2010.11
14. 多様な音楽の重なり 葛藤雄弁に 「欲望という名の電車」 大阪音大 ザ・カレッジオペラハウス	読売新聞 大阪夕刊	音楽の窓	2010.12
15. 日本のオペラ 40年の集大成 こんにやく座「変身」	読売新聞 大阪夕刊	音楽の窓	2011.6
16. 多彩な仕掛けの人生賛歌 兵庫県立芸術文化センター「こうもり」	読売新聞 大阪夕刊	音楽の窓	2011.8
17. 名手が生んだ稀有な瞬間 みつなかオペラ「ラ・ファヴォリータ」	読売新聞 大阪夕刊	音楽の窓	2011.10
18. 登場人物の心理 響きで現出 オペラ「ねじの回転」	読売新聞 大阪夕刊	音楽の窓	2011.11
19. ワーグナーこなした存在感 びわ湖ホール「タンホイザー」	読売新聞 大阪夕刊	音楽の窓	2012.4
20. 巨匠の実験 演劇性重視のオペラ ピーター・ブルックの「魔笛」	読売新聞 大阪夕刊	音楽の窓	2012.4
21. 佐渡指揮 情念のドラマ力強く 兵庫県立芸術文化センター「トスカ」	読売新聞 大阪夕刊	音楽の窓	2012.8
22. 揺れ動く男女の二重唱 白眉 びわ湖ホール「コジ・ファン・トゥッテ」	読売新聞 大阪夕刊	音楽の窓	2012.12
23. 合唱加え更なる発展性/ 寺嶋陸也の「末摘花」 並河寿美が見事に表現/ 木下順二、團伊玖磨の 「夕鶴」	読売新聞 大阪夕刊	音楽の窓	2013.3
24. 心理表す舞台 絢爛たる上演 フェニーチェ歌劇場「オテロ」	読売新聞 大阪夕刊	音楽の窓	2013.5

25. 「声」という楽器の豊かさ サロメ・カンマー 声楽リサイタル	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2013.7
26. 心躍動する祝祭的空間 オペラ「セビリヤの理髪師」	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2013.8
27. オペラ「死の都」 静と動 対照的な演出	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2014.4
28. 能着想のオペラ 心に染みる和洋転換	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2014.10
29. 若き天才の血潮ひしひしと バーンスタイン作曲「ON THE TOWN」	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2014.11
30. 新しき吹奏楽 劇的な祝祭 大阪市音楽団「ファウストの恋人」	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2015.1
31. 母の嘆き 様式美で際立つ オペラ「藤戸」	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2015.4
32. 黒船到来 ドタバタオペラ 野田秀樹演出「フィガロの結婚」	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2015.6
33. 戦争の悲惨さ 叙事的に 合唱劇「子供の十字軍」	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2015.9
34. 巧みな映像 現代の色男描く 英国ロイヤル・オペラ「ドン・ジョヴァンニ」	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2015.10
35. チャイロイプリンの踊る「三文オペラ」－ 「踊る」三文オペラとオペラの時間の崩壊	メルキュール・デザール(1)	2015.10
36. 恋する老騎士 大団円の讃歌 オペラ「ファルスタッフ」	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2015.11
37. 新しい合唱団演奏会－委嘱が生み出すエネルギー	メルキュール・デザール(2)	2015.11
38. 前田裕佳 ピアノ・リサイタル ～メロディとソノリ テ（響き）の交錯 フランスと日本のレフレクシオ ン（反響）～	メルキュール・デザール(2)	2015.11
39. まこりん&くろりんのカバレット「星に願いを」 －時代の闇を照らすカバレットのすすめ	メルキュール・デザール(2)	2015.11
40. クリスチャン・レオッタ ベートーヴェン・ピアノ ソナタ全曲演奏会－哲学書を紐解くベートーヴェン	メルキュール・デザール(3)	2015.12
41. オペラ「フィデリオ」自由と厳しい現実対比	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2016.2
42. 妖怪と鷹匠 鏡花の幻想美 オペラ「天守物語」	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2016.4
43. 宝塚ミュージカル《こうもり》：清く正しきエンタ ーテイメント ～あるいは分かりやすさの追求～	メルキュール・デザール(7)	2016.4
44. 大阪4大オーケストラの響演－顔のあるオーケスト ラー在阪オケのショーケースを超えて「響演」が示 したもの	メルキュール・デザール(7)	2016.4
45. オーケストラ新喜劇－日本センチュリー交響楽団、 大阪ミナミの「笑いの殿堂」に挑む	メルキュール・デザール(7)	2016.4

46.	ハイライト 躍動感に満ち バーミンガム市交響公演	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2016.7
47.	「夏の夜の夢」幻想世界 佐渡流で鮮やかに	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2016.8
48.	《マハゴニー市の興亡》 —未体験ゾーンのコールドなジャズ・ミュージカルとそのパラドクス	メルキュール・デザール(13)	2016.10
49.	抑制された表現 内に情熱 バイエルン放送交響楽団	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2016.11
50.	クルト・ヴァイルの辿った道 —声の魅惑と芸術キャバレー	モーストリー・クラシック 2016年12月号、通巻235号 産経新聞社, pp. 26-27	2016.11
51.	テクノロジー駆使 圧巻舞台 びわ湖ホールプロデュースオペラ「ラインの黄金」	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2017.3
52.	音の祝祭さらなる醸成へ 「大阪4大オーケストラの饗演」	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2017.4
53.	忘れられた音楽 禁じられた作曲家たち — 《Cultural Exodus》証言としての音楽	メルキュール・デザール(19)	2017.4
54.	神との対話 感動的ドラマ 大フィル70周年記念 「ミサ」	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2017.7
55.	原点回帰 普遍的強さ 佐渡裕指揮 オペラ「フィガロの結婚」	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2017.8
56.	赤松林太郎 ピアノコンサート 2017 夏	メルキュール・デザール(24)	2017.8
57.	パーカッション・パフォーマンス ビートジャック 「時を打つ！」	メルキュール・デザール(25)	2017.9
58.	空想の日本を描く極彩色の道頓堀が出現 びわ湖ホール オペラへの招待 サリヴァン 「ミカド」	関西音楽新聞 (783)	2017.9
59.	ウィーン ムジークフェスト2017 ルドルフ・ ブッフビンダー	メルキュール・デザール(26)	2017.10
60.	民衆のいきいきとした人間像が浮かび上がる 関西歌劇団 第99回公演 「白狐の湯」 「赤い陣羽織」	関西音楽新聞 (785)	2017.11
61.	幸福感に溢れたカタルシス 大フィル 「モーツァルト三大交響曲」	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2017.12
62.	降り注ぐ光りのようなメシアン多彩な響き 「アッシジの聖フランチェスコ」	関西音楽新聞 (787)	2018.1
63.	人間の業 現代に通じる佐渡裕監督 オペラ「魔弾の射手」	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2018.8
64.	シネマティック・フルオーケストラ・コンサート 《ウエスト・サイド物語》	メルキュール・デザール(36)	2018.9
65.	音楽との出会い 羅針盤を持たない歌 — クルト・ヴァイルを歌う	メルキュール・デザール(37)	2018.10
66.	音楽を活かす舞台の動き コメディセンス発揮 「テレフォン」 「泥棒とオールドミス」	関西音楽新聞 (798)	2018.12

67. 邦訳挑んだ「魔法の空間」 関西二期会オペラ「サルタン王の物語」	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2018.12
68. 古典越え「今」を奏でる ロシア楽団「ムジカエテルナ」初来日	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2019.3
69. 生誕 100 年 古典へ昇華 バーンスタイン「オンザ・タウン」	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2019.8
70. 「声」が描く人物の個性 時代を超えた普遍を証左 「フィガロの結婚」	関西音楽新聞 (810)	2019.12
71. 音楽評: 調和を真髄とする一糸乱れぬ呼吸と響き ドーリック・クアルテット	関西音楽新聞 (810)	2019.12
72. バロックの美学を想起 オペラ「ピグマリオン」	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2020.1
73. 作曲家の魅力 多角的に機能 武満徹のミニフェスティバル	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2020.1
74. 歌役者の存在が光る 若々しい痛快な名舞台 オペラへの招待 J.シュトラウスⅡ世 「こうもり」	関西音楽新聞 (812)	2020.2
75. プロアマ集結 幕開け力強く 堺シティオペラの「アイーダ」	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2020.2
76. 一糸乱れぬ完璧主義 カタルシスへ導く 一読売日本交響楽団 第 25 回大阪定期演奏会	関西音楽新聞 (812)	2020.2
77. レビュー: 地方劇場の偉業 配信も糧に ワーグナー「ニーベルングの指環『神々の黄昏』」 7日、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール	読売新聞 全国版	2020.3
78. 変容するイメージ ヴェリズモの多層性 関西二期会 第 92 回 オペラ公演 「カヴァレリア・ ルスティカーナ」/「パリアッチ」	関西音楽新聞 (814)	2020.4
79. コロナ禍の関西音楽界に寄せて ー感謝と期待をこめてー	関西音楽新聞 (815)	2020.5
80. 豊かな自然が生む一期一会 坊舎の古庭園で演奏会	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2020.7
81. エンターテインメントとしてのご当地創作 オペラの魅力 第 29 回 みつなかオペラ「満仲 -美女丸の廻心」	関西音楽新聞 (821)	2020.11
82. 自由を希求、解放の物語 ベートーベン唯一のオペラ	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2020.11
83. コロナ禍の試み ー師走に考えるヴァイル生誕 120 年、没後 70 年	メルキュール・デザール(63)	2020.12
84. 若者の気概 曲と共鳴 大阪音大の定期演奏会	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2021.1
85. 日本キャストでワーグナー オペラ「ローエングリン」	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2021.3
86. 沢知恵、りゅうりえんれんの物語 (詩: 茨木のり子)	メルキュール・デザール(71)	2021.8

87. 魂の叫び力強い歌声で 現代に飛翔するカルメン 歌劇 「カルメン」	関西音楽新聞 (831)	2021.9
88. 久石ワールドとの邂逅 日本センチュリー交響 定期演奏会	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2021.10
89. ブルーノ・ジネール: オペラ 《シャルリー 茶色の朝》	メルキュール・デザール(74)	2021.11
90. 再演重ねて世界の宝へ オープニング記念オペラ「千姫」	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2022.1
91. 明晰な音楽づくり 物語の核心へ誘う演出 オペラ de 神戸 第4回公演 ヴェルディ「椿姫」	関西音楽新聞 (836)	2022.2
92. 内面の成長の物語 びわ湖ホールプロデュース オペラ ワーグナー作曲「パルジファル」	関西音楽新聞 (838)	2022.4
93. 4人の「今」響きあう ユニット・カトルカール 音楽会	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2022.4
94. 音楽のネガティブ・ケイパビリティ	メルキュール・デザール(81)	2022.7
95. ヴィラ＝ロボス 西洋音楽に深み 神戸市室内管弦楽団「バッハ、ブラジルへ行く」	読売新聞 音楽の窓 大阪夕刊	2022.9